

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2017年 -

尾関由姫恵 猪野翔一郎 棚倉雄一郎 山田さゆり 細野真弓 齋藤章暢 岸本剛

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2017

Yukie Ozeki, Shoichiro Ino, Yuichiro Tanakura, Sayuri Yamada, Mayumi Hosono, Akinobu Saito, and Tsuyoshi Kishimoto

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。この事業は一類から五類感染症、新感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく基幹感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

今回は2017年の発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する。

対象および方法

感染症法に基づく届出対象疾患を表1-1,2に示した¹⁾。埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市、川崎市及び越谷市を含む全県域から収集した届出を対象とした。

届出数の集計には感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease: NESID）の感染症発生動向調査システムに登録された2018年2月現在の確定数をダウンロードして用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2017年1月1日から2017年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2017年第1週（2017年1月2日～8日）から52週（2017年12月25日～31日）まで、月単位報告対象疾患は、2017年1月から12月までの報告を対象とした。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳毎の階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表2-1に、四類感染症を表2-2に、五類全数把握対象疾患を表2-3にそれぞれ示し

た。また、調査期間中に新感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症に指定された疾患はなかった。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

二類感染症の結核は男744例、女557例の計1,301例の届出があった。類型別では、患者が858例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）が435例、疑似症患者が8例であった。患者では60歳以上が67.5%を占め、男女とも80歳代が最も多かった。性比は男が女の1.3倍であった。無症状病原体保有者では、男は70歳代、女は50歳代が最も多かった。患者の届出は2012年以降1,000例を下回っており（2012年患者995例、2013年945例、2014年929例、2015年902例、2016年939例）、さらに2017年は900例を下回った。

三類感染症は、細菌性赤痢7例、腸管出血性大腸菌感染症246例、腸チフス3例の計256例の届出があった。

1) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は男5例、女2例の計7例の届出があった。症例の年齢は20歳代から40歳代に分布した。類型別では、患者5例、無症状病原体保有者2例であった。いずれも診断方法は分離・同定による病原体の検出であり、血清型は *sonnei* (D群) の検出が5例、*flexneri* (B群) の検出が2例であった。推定感染地域はインドネシア、ベトナム、フィリピンが各2例、インドが1例であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は男108例、女138例の計246例の届出があった。症例の年齢は10歳未満の69例、20歳代の55例、30歳代の33例の順に多かった。類型別では、患者155例、無症状病原体保有者91例で、無症状病原体保有者が全体の37.0%を占めた。O血清型は、O157が160例と最も多く、次いでO26の64例で、O157とO26の全体に占める割合はそれぞれ65.0%と26.0%であった。O157の検出は20歳代が最も多く、O26の検出は10歳未満が最も多かった。その他の血清型は少数で、O121が6例、O111が5例、O91が3例、O145が2例、O84、O93、O100、O103、O146、型別不能(OUT)が各1例であった。溶血性尿毒症症候群(HUS)は、10歳未満の3例、10歳代、30歳代及び80歳代の各1例の計6例の発症が確認された。

表 1-1 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1) 鳥インフルエンザ(H7N9)	○ ○	○ ○	○ ○	(全数) (全数)	直ちに 直ちに	a a
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノкокクス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ポツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。但し、鳥インフルエンザはH5亜型、H7亜型ウイルスが検出された患者
 **内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)

表 1-2 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
五類	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	内科 小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(入院)	○	×	×	基幹	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	水痘(入院例)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	百日咳	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	風しん	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す

**内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)

b1: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名

b2: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍

c1: 年齢、性別

c2: 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

HUS患者の0血清型は5例が0157で、1例は0145であった。届出は8月が最も多く、7月～9月の届出数は178例で、全体の7割を超える届出が7月～9月に集中した。

3) 腸チフス

腸チフスは10歳未満、10歳代及び20歳代の男3例の届出があった。いずれも類型は患者、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はパキスタンが各2例、バングラデシュが1例であった。

表 2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2017年	2016年	2015年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1301	1385	1273
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群★	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)★	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	7	11	6
	腸管出血性大腸菌感染症	246	174	167
	腸チフス	3	2	1
	パラチフス	0	0	1

★ 指定感染症であった中東呼吸器症候群及び鳥インフルエンザ(H7N9)は、2015年1月21日から二類感染症に移行

(2) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎19例、A型肝炎12例、つつが虫病2例、デング熱12例、ブルセラ症1例、マラリア1例、レジオネラ症99例、レプトスピラ症2例の計148例の届出があった。

1) E型肝炎

E型肝炎は男15例、女4例の計19例の届出があった。症例の年齢は20歳代から70歳代に分布し、60歳代の7例が最も多かった。類型は全て患者で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出4例、血清IgA抗体の検出のみが15例であった。推定感染経路は経口感染9例、不明10例で、推定感染地域は国内18例、国外1例であった。届出は年間を通じて散発的にあり、患者間の関連性は認められなかった。

2) A型肝炎

A型肝炎は男5例、女7例の計12例の届出があった。症例の年齢は10歳代から70歳代に分布し、50歳代の4例が最も多く、次いで20歳代の3例であった。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が5例、血清IgM抗体の検出のみが7例であった。推定感染経路は経口感染が10例、不明が2例で、推定感染地域は国内10例、国外2例であった。また、ワクチン接種歴は無しが

8例、不明が4例であった。届出は2月から8月に行われ、特に5月から6月の間に7例が届出されたが、患者間の関連性は認められなかった。

3) つつが虫病

つつが虫病は80歳代の男1例、60歳代の女1例の計2例の届出があった。診断方法は前者がIgM抗体の検出、後者がIgM抗体の検出及びペア血清での抗体価の有意上昇であった。いずれも推定感染地域は国内での感染で、届出は11月及び12月にあった。

4) デング熱

デング熱は男7例、女5例の計12例の届出があった。症例の年齢は20歳代から50歳代に分布した。病型別では、デング熱11例、デング出血熱1例の届出があった。診断方法は、PCR法による病原体遺伝子の検出及びNS1抗原の検出が8例、NS1抗原の検出のみが4例であった。推定感染地域は、東南アジアが7例、南アジアが3例、アフリカが2例といずれも国外であった。

5) ブルセラ症

ブルセラ症は40歳代の男1例の届出があった。診断方法は血液からの分離同定による病原体の検出及び試験管凝集反応による血清抗体の検出で、推定感染地域は中華人民共和国であった。

6) マラリア

マラリアは20歳代の男1例の届出があった。病型は三日熱、診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出で、推定感染地域はソロモン諸島であった。

7) レジオネラ症

レジオネラ症は男78例、女21例の計99例の届出があった。性比は男が女の3.7倍で、男は30歳代から80歳代に分布し、特に60歳代及び70歳代が多かった。女の届出は、50歳代から90歳代に分布し、80歳代の9例が最も多かった。病型別では、肺炎型が98例、ポンティアック熱型が1例で、肺炎型が全体に占める割合は99.0%であった。年間を通して届出はあったが、月別の届出数で最も多かったのは7月の21例で、7月から10月で全体の61.6%を占める61例の届出があった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が98例、分離同定による病原体の検出、及びPCR法またはLAMP法による病原遺伝子の検出が各7例であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内97例、国外2例で、国内感染例のうち県内は71例であった。集団感染は認められなかった。

8) レプトスピラ症

レプトスピラ症は40歳代及び70歳代の男2例の届出があった。診断方法は、いずれもPCR法による病原体遺伝子の検出及びペア血清での顕微鏡下凝集試験法(MAT)による血清抗体の検出で、推定感染経路は、前者が鼠による咬傷、後者が水系感染で、推定感染地域は国内であった。

表 2-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2017年	2016年	2015年		2017年	2016年	2015年
E型肝炎	19	15	7	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	12	6	16	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	0	0	1	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0	ブルセラ症	1	0	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ポツリヌス症	0	0	0
ジカウイルス感染症★	0	0	-	マラリア	1	0	1
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	0
チクングニア熱	0	1	1	レジオネラ症	99	89	90
つつが虫病	2	1	0	レプトスピラ症	2	0	0
デング熱	12	13	13	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

★ ジカウイルス感染症は2016年2月15日から 届出の対象

(3) 五類感染症

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢 53 例、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)11 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 57 例、急性脳炎 45 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 4 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 22 例、後天性免疫不全症候群 35 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 21 例、侵襲性髄膜炎菌感染症 2 例、侵襲性肺炎球菌感染症 130 例、水痘(入院例)12 例、梅毒 234 例、播種性クリプトкокクス症 3 例、破傷風 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 12 例、風しん 6 例、麻しん 5 例、薬剤耐性アシネトバクター感染症 8 例の計 662 例の届出があった。

1) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は男 48 例、女 5 例の計 53 例の届出があった。性比は男が女の 9.6 倍で、男が 30 歳代から 70 歳代に分布し、60 歳代の 15 例が最も多かった。女は 50 歳代 4 例、20 歳代が 1 例であった。病型別では、腸管アメーバ症 44 例、腸管外アメーバ症 6 例、腸管及び腸管外アメーバ症 3 例であった。診断方法は、腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出 28 例、血清抗体の検出 9 例、鏡検による病原体の検出及び血清抗体の検出が 6 例、血清抗体の検出及びその他(内視鏡所見)が 1 例であった。腸管外アメーバ症は、鏡検による病原体の検出 2 例、血清抗体の検出 4 例、腸管及び腸管外アメーバ症では、血清抗体の検出が 2 例、鏡検による病原体の検出及び血清抗体の検出が 1 例であった。推定感染経路は、経口感染 8 例、性的接触 11 例、不明 34 例で、性的接触の内訳は異性間性的接触 5 例、同性間性的接触 4 例、異性同性不明 2 例であった。推定感染地域は、国内 46 例、国外 6 例、不明 1 例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)は、B型肝炎 7 例、C型肝炎 4 例の計 11 例の届出があった。B型肝炎は、男 6 例、女 1 例で、症例の年齢は 20 歳代から 60 歳代に分布した。診断方法は、全て血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。推定感染経路は 6 例が性的接触で、その内訳は異性間性的接触 5 例、異性同性不明 1 例で、針等の鋭利なものの刺入による感染が 1 例であった。また、推定感染地域は国内が 6 例、国外が 1 例であった。C型肝炎は、男 2 例、女 2 例で、40 歳代が 2 例、30 歳代及び 60 歳代が各 1 例であった。診断方法は、血清での HCV 抗体陰性かつ HCV 抗原の検出が 2 例、ペア血清での HCV 抗体の検出が 1 例、血清での HCV 抗体陰性かつ HCV 抗原の検出及びペア血清での HCV 抗体の検出が 1 例であった。推定感染経路は 2 例が性的接触で、その内訳は異性間性的接触 1 例、異性同性不明 1 例で、感染経路不明が 2 例であった。推定感染地域は国内が 3 例、不明が 1 例であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は男 35 例、女 22 例の計 57 例の届出があった。症例の年齢は 60 歳以上が 47 例で全体の 82.5%を占めた。症状は菌血症・敗血症が 26 例、尿路感染症が 18 例、肺炎が 12 例、腸炎・腹膜炎が 8 例、胆嚢炎・胆管炎が 5 例であった(重複あり)。検査検体で多かったのは、血液の 15 検体、尿の 13 検体、喀痰の 11 検体であった。病因菌は、Enterobacter cloacae が 23 例、Enterobacter aerogenes が 21 例で、Enterobacter 属が全体の 77.2%を占めた。他の細菌では Escherichia coli が 5 例、Klebsiella pneumoniae が 4 例、Serratia marcescens

が3例、*Citrobacter freundii*が1例であった。また、*Klebsiella pneumoniae*が血液から検出された1症例では、便からもカルバペネム耐性の*Escherichia coli*が検出された。

4) 急性脳炎

急性脳炎は男21例、女24例の計45例の届出があった。症例は10歳未満から70歳代に分布し、10歳未満の30例が最も多かった。届出は年間を通してあり、インフルエンザウイルスは1月、2月、4月及び12月の患者6例から、エンテロ・パレコウイルス（コクサッキーウイルス、エンテロウイルスA71、パレコウイルス）が8月から9月の患者5例から検出された。また、ヘルペスウイルス（単純ヘルペスウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス7）が6例から検出された。また、他の病原体としてヒトパルボウイルスB19が2例、アデノウイルス、ムンプスウイルス、マイコプラズマが各1例、病原体が特定されていなかったのが23例であった。推定感染地域は、いずれも国内であった。

5) クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）

クロイツフェルト・ヤコブ病は男2例、女2例の計4例の届出があった。症例は60歳代から80歳代に分布した。病型は古典型CJDが3例、家族性CJDが1例で、いずれも診断の確実度では、ほぼ確実であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2017年	2016年	2015年
アメーバ赤痢	53	44	30
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	11	7	6
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	57	51	40
急性脳炎	45	38	28
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	4	5	10
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22	21	12
後天性免疫不全症候群	35	40	35
ジアルジア症	0	1	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	21	9	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	2	2
侵襲性肺炎球菌感染症	130	108	84
水痘(入院例)	12	9	10
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	234	193	108
播種性クリプトコックス症	3	8	7
破傷風	2	4	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	12	9	9
風しん	6	4	8
麻しん	5	8	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	8	7	1

6) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は男7例、女15例の計22例の届出があった。症例の年齢は60歳以上が16例で、全体の72.7%を占めた。診断方法は全例が分離同定による病原体の検出で、血清群はA群が10例、G群が7例、B群

が3例で、不明は2例であった。推定される感染経路は創傷感染が10例、飛沫感染が2例で、不明が10例で、推定感染地域はいずれも国内であった。

7) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は男31例、女4例の計35例の届出があった。症例の年齢は10歳代から70歳代に分布し、20歳代及び30歳代の各10例が最も多く、次いで40歳代の8例の順であった。病型では無症状病原体保有者が21例、AIDSが10例、その他が4例であった。病型別の年齢分布では、無症状病原体保有者は20歳代及び30歳代が各8例で76.2%を占めていたが、AIDSでは40歳代の4例が最も多かった。AIDS患者10例の指標疾患は、ニューモシスティス肺炎が8例、サイトメガロウイルス感染症が2例、カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）及びトキソプラズマ脳症、カボジ肉腫が各1例であった（重複あり）。推定される感染経路では性的接触が31例、不明が4例であった。また、性的接触の内訳は同性間性的接触が15例、異性間性的接触が12例、異性・同性間性的接触が3例、異性・同性不明性的接触が1例であった。

8) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は男12例、女9例の計21例の届出があった。症例の年齢は80歳代の6例及び70歳代の5例が多かった。診断方法はいずれも血液からの分離同定による病原体の検出で、ヒブワクチン接種歴は10歳未満の2例が有り、10歳代以上の階級では有りが1例で、無し及び不明が各9例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が7例、不明が14例、いずれも推定感染地域は国内であった。

9) 侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は30歳代の男1例、70歳代の女1例の計2例の届出があった。診断方法は、前者が髄液及び血液からの分離同定による病原体の検出で、血清群はB群、後者が血液からの分離同定による病原体の検出で、血清群は不明(未実施)であった。いずれも推定感染地域は国内であった。

10) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は男81例、女49例の計130例の届出があった。性比は男が女の1.7倍で、症例の年齢は60歳代、70歳代及び80歳以上が103例で全体の79.2%を占めた。また、10歳未満は14例で全体の10.8%であった。診断方法では、分離同定による病原体の検出が129例、病原体抗原の検出が12例、PCR法による病原体遺伝子の検出が3例であった（重複例有り）。侵襲性を示す症状では、菌血症が最も多く116例で肺炎等の別の症状との合併症が多く、菌血症のみの発症は5例であった。ワクチン接種歴は、有りが27例で10歳未満が12例、60歳代が7例、70歳代及び80歳以上が各4例、無しは46例、不明57例で、推定感染地域は129例が国内、1例が不明であった。

11) 水痘（入院例）

水痘（入院例）は男9例、女3例の計12例の届出があっ

た。症例の年齢は10歳未満から70歳代に分布した。病型別では検査診断例が8例、臨床診断例が4例で、検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出が4例、PCR法による病原体遺伝子の検出が2例、分離同定による病原体の検出が1例、PCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1例であった。ワクチン接種歴は有りが2例、無しが4例、不明が6例で、推定感染地域は、いずれも国内であった。

12) 梅毒

梅毒は男152例、女82例の計234例の届出があった。性比は男が女の1.9倍で、症例の年齢は男が、20歳代から80歳代に分布し、特に20歳代、30歳代及び40歳代が多かった。女は20歳代が42例と最も多かった。病型別では、男は早期顕症梅毒(I期)が72例、早期顕症梅毒(II期)が39例、晩期顕症梅毒が6例、無症状病原体保有者が35例で、女は早期顕症梅毒(I期)が15例、早期顕症梅毒(II期)が30例、無症状病原体保有者が37例で、男では顕症梅毒の届出数は無症状病原体保有者の3倍以上となった。推定感染経路は、男で性行為感染が133例、不明が19例、女で性行為感染が70例、不明が12例であった。性行為感染の内訳で異性間性的接触は男の67.1%、女の73.2%を占めた。また、推定感染地域は国内が226例、国外が6例、不明が2例であった。

13) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は男2例、女1例の計3例の届出があった。症例の年齢は70歳代及び80歳代に分布した。診断方法は、全てで血液又は髄液からの分離同定による病原体の検出が行われていたほか、病理組織学的診断が1例で行われていた。感染原因では、免疫不全を来す基礎疾患又は症状に関連して、全例でステロイド剤投与が認められた。推定感染地域はいずれも国内であった。

14) 破傷風

破傷風は80歳代の男2例の届出があった。いずれも診断方法は臨床決定、破傷風含有ワクチンの接種歴は不明、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内であった。

15) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は男5例、女7例の計12例の届出があった。症例の年齢は60歳以上に分布した。診断方法は、全例が分離同定による病原体の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われていた。分離された病原体はいずれも *Enterococcus faecium* であった。推定感染地域は国内が11例、国外1例であった。

16) 風しん

風しんは男4例、女2例の計6例の届出があった。症例の年齢は10歳未満が3例、50歳代が2例、30歳代が1例であった。病型は検査診断例が5例、臨床診断例が1例であった。検査診断例の診断方法は全て血清IgM抗体の検出であった。ワクチン接種歴は10歳未満の3例が有り、30歳代の1例が無し、50歳代の2例が不明で、推定感染地域

はいずれも国内であった。

17) 麻しん

麻しんは男2例、女3例の計5例の届出があった。症例の年齢は20歳代が3例、10歳代及び50歳代が各1例であった。病型は麻しん(検査診断例)が4例、修飾麻しん(検査診断例)が1例で、検査診断例の診断方法は、PCR法による病原体遺伝子の検出が3例、PCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1例、血清IgM抗体の検出が1例であった。予防接種の接種歴は1回目、2回目共に、無しが1例、不明が4例であった。推定感染経路では、2例に海外渡航歴が認められ、2例に国内での麻しん患者との接触があり、残りの1例は不明であった。

18) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症は男6例、女2例の計8例の届出があった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、喀痰からの分離・同定による病原体の検出が6例、髄液及び膿からの検出が各1例であった。全てに90日以内の海外渡航歴は認められなかった。

(4) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(犬)、結核(サル)、鳥インフルエンザH5N1又はH7N9(鳥類)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の10疾患の届出はなかった。

2. 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1,2に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2017年の第1週～52週の累積報告患者総数は102,488例、定点当たり報告総数は406.70で前年と比べ僅かに増加した。前年から始まった2016-2017シーズンの流行は、年始の休暇明けに急激に増加し、第4週(1/23～29)に最大値51.68を観測した。また、2017-2018シーズンの流行入りは前シーズン同様に11月であった。年齢階級別では、10歳未満が全体の50.0%を占めた。

表3-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日 (週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院)
17-1	01/02	3,226	22	28	192	707	92	14	9	33	-	2	90	1	13	-	1	5	1	-	20
17-2	01/09	5,093	32	35	301	1,001	95	11	10	64	1	2	116	1	16	-	-	6	1	-	43
17-3	01/16	9,676	25	34	450	1,098	53	9	4	78	2	4	79	-	16	-	-	5	1	-	30
17-4	01/23	13,074	29	39	410	893	72	13	8	45	-	1	68	1	20	-	1	3	1	-	33
17-5	01/30	11,954	20	49	423	784	67	10	12	48	2	2	87	-	16	-	4	5	-	1	40
17-6	02/06	8,856	25	31	340	760	56	14	7	47	-	-	67	3	10	-	-	6	2	2	37
17-7	02/13	7,011	21	43	447	878	73	9	9	52	-	2	79	3	18	-	1	1	-	1	23
17-8	02/20	5,201	22	36	469	862	69	7	9	60	3	1	82	1	11	-	2	5	-	1	24
17-9	02/27	3,951	16	44	467	965	86	10	8	59	-	3	77	-	18	-	-	-	-	4	7
17-10	03/06	3,129	20	30	466	1,061	81	9	6	57	-	4	81	3	23	-	-	3	-	5	11
17-11	03/13	3,058	12	39	519	1,169	84	8	7	81	1	5	70	-	15	1	-	3	-	10	8
17-12	03/20	2,262	19	37	386	985	80	5	6	66	-	2	59	-	24	-	1	1	-	8	12
17-13	03/27	2,047	18	29	370	1,037	73	7	6	76	1	3	64	-	25	-	-	2	-	14	8
17-14	04/03	1,515	16	39	336	1,127	93	5	12	98	-	2	73	2	23	-	-	1	-	8	20
17-15	04/10	1,027	19	40	393	1,166	65	13	10	93	1	4	80	-	26	-	-	5	-	7	3
17-16	04/17	1,239	16	55	541	1,354	35	9	9	101	-	4	61	2	32	-	1	6	1	8	7
17-17	04/24	1,000	29	65	560	1,350	48	5	11	95	1	5	72	1	25	-	-	2	-	4	2
17-18	05/01	571	26	46	411	1,029	35	10	12	75	1	3	70	3	30	1	-	-	-	9	3
17-19	05/08	412	21	105	649	1,622	88	14	14	110	1	9	84	1	40	1	-	3	-	11	1
17-20	05/15	195	28	93	639	1,458	76	20	14	110	2	9	75	3	46	1	-	2	-	5	-
17-21	05/22	92	20	144	706	1,346	80	67	19	108	-	22	78	3	39	-	-	3	1	5	-
17-22	05/29	77	28	187	697	1,259	115	79	26	132	-	26	79	2	57	-	-	5	-	5	-
17-23	06/05	68	39	208	792	1,190	64	81	30	126	-	31	73	1	61	1	-	2	1	1	-
17-24	06/12	20	37	216	807	1,106	93	123	26	114	1	44	58	5	45	1	1	-	1	1	1
17-25	06/19	8	32	211	731	1,118	79	139	27	114	1	44	68	2	36	-	1	1	-	1	-
17-26	06/26	19	38	197	636	1,029	93	185	34	110	2	81	78	2	44	1	-	1	-	-	-
17-27	07/03	18	60	192	614	1,015	74	478	35	108	-	152	60	1	39	-	-	2	-	-	-
17-28	07/10	10	81	200	491	909	72	856	29	115	1	263	55	2	28	-	-	-	-	-	-
17-29	07/17	10	169	192	340	718	68	1,107	27	112	-	262	51	4	37	-	-	4	-	-	-
17-30	07/24	20	243	221	374	730	75	1,560	32	114	2	336	76	1	66	1	-	1	-	-	-
17-31	07/31	13	310	211	291	697	61	1,880	23	95	1	467	69	1	56	-	4	3	-	-	-
17-32	08/07	4	304	127	146	494	47	1,586	11	47	3	270	32	1	51	1	2	1	-	-	-
17-33	08/14	10	331	121	147	385	37	1,364	16	59	2	203	28	-	47	-	3	1	-	-	-
17-34	08/21	17	405	100	196	562	34	1,777	33	89	4	323	37	-	58	2	1	1	-	-	-
17-35	08/28	23	505	78	212	593	35	1,683	16	98	1	307	50	-	57	-	2	2	-	-	-
17-36	09/04	55	482	84	268	623	31	1,362	13	83	2	302	26	2	64	-	1	2	-	-	-
17-37	09/11	77	445	92	274	616	40	1,288	15	65	-	319	41	-	73	-	-	2	-	-	-
17-38	09/18	35	337	86	257	461	41	839	6	72	1	160	38	-	64	1	1	3	-	-	1
17-39	09/25	39	248	79	325	645	40	734	16	84	1	179	38	-	75	-	2	5	-	-	2
17-40	10/02	42	175	81	360	636	49	653	6	80	3	124	34	-	51	-	3	2	-	-	2
17-41	10/09	19	149	59	285	563	23	484	7	75	1	110	25	-	40	-	-	2	-	-	-
17-42	10/16	45	87	71	394	600	72	412	10	73	-	138	42	-	62	-	2	3	-	-	-
17-43	10/23	97	101	105	416	681	57	497	12	72	4	131	34	1	46	-	-	1	-	-	1
17-44	10/30	170	101	114	418	661	113	368	9	71	2	82	24	3	41	-	2	5	-	-	-
17-45	11/06	198	78	117	478	837	89	290	10	81	-	55	34	2	50	-	3	7	-	-	3
17-46	11/13	281	67	127	513	1,051	119	229	11	71	4	50	29	3	48	2	3	2	-	-	-
17-47	11/20	348	55	161	516	1,344	77	198	4	67	2	38	23	-	23	-	-	2	-	-	1
17-48	11/27	871	44	186	667	1,897	128	184	17	81	3	34	26	2	48	-	1	6	1	-	7
17-49	12/04	1,460	64	176	672	2,061	83	182	20	73	4	39	12	-	41	-	-	4	-	-	5
17-50	12/11	2,941	46	197	661	2,151	130	123	23	83	-	24	17	2	44	-	1	2	-	-	7
17-51	12/18	4,993	74	148	580	2,057	99	99	16	53	-	18	17	5	32	-	-	3	1	1	15
17-52	12/25	5,911	81	98	434	1,490	92	52	17	50	1	5	22	1	26	-	1	2	-	-	11
2017年計		102,488	5,672	5,503	23,467	52,831	3,731	21,161	779	4,223	62	4,706	2,908	71	1,996	14	45	144	12	112	388
2016年計		96,030	3,959	3,075	21,588	65,347	4,661	3,770	1,983	4,325	71	7,675	8,926	46	1,315	7	35	473	31	55	257
2017年/2016年比		1.1	1.4	1.8	1.1	0.8	0.8	5.6	0.4	1.0	0.9	0.6	0.3	1.5	1.5	2.0	1.3	0.3	0.4	2.0	1.5

(-:0)

(2)小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2017年第1週～52週の累積報告患者数は5,672例、定点当たり報告患者総数は35.45で、前年より増加した。報告数は例年より早い7月から増え始めた。流行のピークは第35週(8/28～9/3)に観察され、10月には定点当たり1.00を下回った。定点当たり報告数の最大値3.10は、過去5年と比較すると最も高かった。年齢階級別では、1歳が最も多く2歳未満が全体の74.2%を占めた。

2) 咽頭結膜熱

2017年第1週～52週の累積報告患者数は5,503例、定点当たり報告患者総数は34.39で、前年より増加した。6月～7月にかけて報告数が多い状況が続き、大きな夏季流行となった。定点当たり報告数の最大値1.37は第24週(6/12～18)に観察された。冬季流行は例年より早い10月下旬から始まり、冬季流行のピークの高さは夏季流行と同等であった。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳～5歳で全体

11.75であった。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳～3歳で全体の66.9%を占めた。

7) 伝染性紅斑

2017年第1週～52週の累積報告患者数は779例、定点当たり報告患者総数4.87で、前年と比べ大きく減少した。6月～8月にかけて小規模な流行が観察され、定点当たり報告数の最大値は第27週(7/3～9)の0.22であった。年齢階級別では、1歳～7歳で全体の75.9%を占めたが、年齢による大きな偏りは認められなかった。

8) 突発性発しん

2017年第1週～52週の累積報告患者数は4,223例、定点当たり報告患者総数は26.39で前年と同水準であった。例年同様に年間を通して常に報告はあり、定点当たり報告数の最大値0.81は第22週(5/29～6/4)に記録された。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳以下で全体の87.9%を占めた。

9) 百日咳

2017年第1週～52週の累積報告患者数は62例、定点当たり報告患者総数0.39は前年より僅かに減少した。前年と同様に際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値は第34週(8/21～27)の0.03であった。年齢階級別では、1歳以下は全体の22.6%を占めた。また、20歳以上は33.9%を占めた。

10) ヘルパンギーナ

2017年第1週～52週の累積報告患者数は4,706例、定点当たり報告患者総数29.41は前年と比べ減少し、中程度の流行年であった2015年と同等であった。患者は7月以降緩やかに増加し、定点当たり報告数の最大値は第31週(7/31～8/6)に2.92を観察した。年齢階級別では、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の63.3%を占めた。

11) 流行性耳下腺炎

2017年第1週～52週の累積報告患者数は2,908例、定点当たり報告患者総数18.18は前年より大きく減少した。定点当たり報告数の最大値0.72は、第2週(1/9～15)に観察された。以降は緩やかな減少が続き、2015年から始まった流行は終息した。年齢階級別では、5歳が最も多く4歳～8歳で全体の64.4%を占めた。

(3)眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2017年第1週～52週の累積報告患者数は71例、定点当たり報告患者総数1.78は前年より増加した。年間を通して報告は認められたが、4月半ばから8月半ばまでは報告は連続した。定点当たり報告数の最大値は第24週(6/12～18)の0.13であった。年齢階級別では、20歳未満は4歳が最も多く、20歳以上では30歳代、40歳代の順に多かった。

2) 流行性角結膜炎

2017年第1週～52週の累積報告患者数は1,996例、定点当たり報告患者総数49.90は前年より増加した。定点当たり報告数は3月以降緩やかに増加し、5月～11月にか

て多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第39週(9/25～10/1)の1.83であった。年齢階級別では、全ての階級から報告があり、20歳以上では30歳代が多かった。

(4)基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2017年第1週～52週の累積報告患者数は14例、定点当たり報告患者総数1.40は前年より増加した。報告は散発的で、定点当たり報告数の最大値は第34週(8/21～27)及び第46週(11/13～19)の0.20であった。年齢階級別では、70歳以上の6例が最も多かった。

2) 無菌性髄膜炎

2017年第1週～52週の累積報告患者数は2017年第1週～52週の累積報告患者数は45例、定点当たり報告患者総数4.50で、前年より増加した。報告数は8月～11月にかけてやや多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は第5週(1/30～2/5)及び第31週(7/31～8/6)の0.40であった。患者の年齢階級別では、0歳の11例が最も多かった。

3) マイコプラズマ肺炎

2017年の第1週～52週の累積報告患者数は144例、定点当たり報告患者総数14.40は前年より大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は、第45週(11/6～12)の0.70で、年間を通じて大きな変動は観察されなかった。年齢階級別では、5～9歳、10～14歳、1～4歳の順で多く、この3階級で全体の70.8%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2017年第1週～52週の累積報告患者数は12例、定点当たり報告患者総数1.20は前年より減少した。患者の報告に集積性は認められず、年間を通して散発的であった。患者の年齢は40歳未満に分布し、年齢階級別では10～14歳の4例が最も多かった。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

2013年第42週から基幹定点報告対象に加わり、2017年第1週～52週の累積報告患者数は112例、定点当たり報告患者総数11.20で、前年と比べ大きく増加した。患者報告は2月から6月まで連続し、定点当たり報告数の最大値は、第13週(3/27～4/2)の1.40であった。年齢階級別では、1～4歳が最も多く、10歳未満が全体の94.6%を占めた。

6) インフルエンザ(入院)

2017年第1週～52週の累積報告患者数は388例、定点当たり報告患者総数38.80は前年より増加した。報告数は、前年12月から増加し4月まで多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値4.30は第2週(1/9～15)に観察された。また、2017-2018シーズンの報告数は11月下旬以降、増加した。年齢階級別では、70歳以上の234例が最も多く、全体の60.3%を占めた。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2017年1月～12月の累積報告患者数は150例、定点当たり報告患者総数15.00で、前年より僅かに増加した。年

表 4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	16	1.60	4	0.40	-	-	116	2.00	40	0.69	15	0.26	38	0.66
2月	10	1.00	-	-	-	-	122	2.10	37	0.64	21	0.36	39	0.67
3月	15	1.50	9	0.90	-	-	131	2.30	38	0.67	26	0.46	45	0.79
4月	8	0.80	8	0.80	-	-	103	1.78	44	0.76	27	0.47	35	0.60
5月	15	1.50	11	1.10	-	-	146	2.47	37	0.63	26	0.44	35	0.59
6月	15	1.50	6	0.60	-	-	155	2.67	58	1.00	31	0.53	31	0.53
7月	9	0.90	5	0.50	1	0.10	135	2.29	51	0.86	17	0.29	47	0.80
8月	14	1.40	3	0.30	-	-	119	2.02	46	0.78	20	0.34	48	0.81
9月	14	1.40	7	0.70	-	-	148	2.55	37	0.64	25	0.43	52	0.90
10月	13	1.30	4	0.40	-	-	139	2.36	46	0.78	15	0.25	46	0.78
11月	11	1.10	4	0.40	-	-	117	2.02	31	0.53	34	0.59	52	0.90
12月	10	1.00	2	0.20	-	-	130	2.24	45	0.78	14	0.24	31	0.53
2017年 計	150	15.00	63	6.30	1	0.10	1,561	26.82	510	8.76	271	4.66	499	8.57
2016年 計	134	13.40	21	2.10	3	0.30	1,385	24.13	487	8.48	259	4.51	423	7.37
2017年/2016年比	1.1	1.1	3.0	3.0	0.3	0.3	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	1.2

表 5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢階級	メシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	6	1	3	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
5-9歳	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
10-14歳	1	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-	31	103	5	15	1	12	22	14
20-24歳	2	1	1	-	-	-	135	334	9	65	15	41	87	32
25-29歳	2	1	-	-	-	-	107	213	19	69	18	28	68	21
30-34歳	-	1	-	-	-	-	113	143	10	59	12	20	55	10
35-39歳	-	2	-	-	-	-	87	74	21	37	23	11	57	8
40-44歳	2	1	1	-	-	-	55	38	16	27	20	15	49	6
45-49歳	2	-	1	1	-	-	38	24	19	27	16	8	30	3
50-54歳	-	-	1	-	-	-	28	8	14	17	10	6	18	4
55-59歳	1	-	1	1	-	-	16	5	7	20	6	-	6	1
60-64歳	3	3	2	1	-	-	6	-	3	9	4	-	4	-
65-69歳	9	1	4	2	-	-	2	-	3	15	3	-	4	-
70歳~	66	34	22	17	1	-	-	-	-	20	2	-	-	-
合計	103	47	36	27	1	-	618	943	126	384	130	141	400	99
男女比	2.19	1.00	1.33	1.00			0.66	1.00	0.33	1.00	0.92	1.00	4.04	1.00

(-:0)

間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数の最大値は1月の1.60であった。年齢階級別では、男女とも70歳以上が最も多く、全体の66.7%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2017年1月~12月の累積報告患者数は63例、定点当たり報告患者総数6.30は前年より大きく増加した。報告は2月を除く各月にあり、5月の11例が最も多かった。年齢階級別では、男女とも70歳以上が最も多く、全体の61.9%を占めた。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2017年1月~12月の累積報告患者数は1例、定点当たり報告患者総数0.10は前年より減少した。報告は7月で、年齢階級は70歳以上であった。

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2017年1月~12月の累積報告患者数は、男性618例、女性943例の計1,561例で、定点当たり報告患者総数26.82

は前年より僅かに増加した。定点当たり報告数の最大値は6月の定点当たり2.67であった。最も報告数が多い年齢階級は、男女共に20~24歳で、前年と比べ大きな変化はなかった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2017年1月~12月の累積報告患者数は、男性126例、女性384例の計510例、定点当たり報告患者総数8.76は前年と同水準であったが、男性は減少し、女性は増加した。定点当たり報告数の最大値は6月の定点当たり1.00であった。最も報告数が多い年齢階級は、男性が35~39歳、女性が25~29歳であった。

3) 尖圭コンジローマ

2017年1月~12月の累積報告患者数は男性130例、女性141例の計271例、定点当たり報告患者総数4.66は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は11月の定点当たり0.59であった。最も報告数が多い年齢階級は、男性が35~39歳、女性が20~24歳であった。

4) 淋菌感染症

2017年1月～12月の累積報告患者数は男性400例、女性99例の計499例、定点当たり報告患者総数8.57は前年より僅かに増加した。定点当たり報告数の最大値は9月及び11月の定点当たり0.90であった。最も報告数が多い年齢階級は、男女共に20～24歳であった。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2017年埼玉県における摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)若しくは発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く)の二つの症候群の届出はなかった。

まとめ

2017年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が1,301例の届出があった。結核患者数は858例で、緩やかな減少傾向にあった。

三類感染症で輸入感染症でもある細菌性赤痢及び腸チフスでは、全てが海外での感染が疑われた。腸管出血性大腸菌感染症は前年より大きく増加した。届出は8月が最も多く、全体の7割を超える届出が7月～9月に集中した。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、つつが虫病、デング熱、ブルセラ症、マラリア、レジオネラ症、レプトスピラ症の計8疾患の届出があった。デング熱は全て海外感染例で、国内での感染が疑われた事例はなかった。レジオネラ症の届出数は前年より増加した。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の計18疾患の届出があった。近年、増加の傾向が著しい梅毒²⁾は前年よりもさらに増加した。顕性梅毒の割合は、男で77.0%、女では54.9%であった。感染経路に関して、異性間性的接触は男が67.1%、女が73.2%を占めた。また、2015年に日本で排除状態にあると認定された麻しん³⁾では、海外渡航や海外で感染した麻しん患者との接触が認められた4例から麻しんウイルスの遺伝子が検出された。

定点把握対象疾患では、インフルエンザ定点から報告されるインフルエンザの報告患者数は前年と比べ僅かに増加した。小児科定点報告疾患では、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の定点当たり報告数が前年を上回った。眼科定点報告疾患の急性出血

性結膜炎及び流行性角結膜炎の定点当たり報告数は前年より大きく増加した。基幹定点週単位報告疾患では、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルス)、インフルエンザ(入院)の報告患者数が前年を上回った。月単位報告疾患ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症及びペニシリン耐性肺炎球菌感染症が前年の報告数を上回った。性感染症定点把握対象疾患では、性器クラミジア感染症、淋菌感染症の報告数が前年に比べ増加した。

文献

- 1) 厚生労働省 感染症法における感染症の分類, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000203410.pdf>
- 2) 国立感染症研究所：日本の梅毒症例の動向について(2018年4月4日現在)。
- 3) WHO News release: Brunei Darussalam, Cambodia, Japan verified as achieving measles elimination, <http://www.wpro.who.int/mediacentre/releases/2015/20150327/en/>